

松風会 NEWS

(ゆめクラブ News) 412号 2020年(令和2年)12月号

秋も深まり紅葉シーズンが到来、北の方では紅葉がすでに見頃を迎えており、県下では箱根(強羅)や三溪園(横浜)、近隣では伊勢原の大山寺(大山阿夫利神社)の各紅葉は11月中旬~下旬が見頃とのこと、コロナ禍のこの時期だけに心身の保養を兼ね、「3密」を避けながら紅葉景勝地探訪には絶好の時節です。コロナ禍で世界を見渡すと、アメリカを筆頭にヨーロッパでも第2波の感染が勃発、都市封鎖が起きています。我が国の場合も感染第3波(?)到来との観測で、東京はじめ全国的に毎日急激な増加の状況、若年層だけでなく高齢者の感染も増えているようです。天気予報では向こう3ヶ月は気温が高めの様ですが、空気が乾燥するこの時期コロナの感染力が強くなるので要注意です。冬に向かってインフルエンザ感染と共存の恐れもあるので、私達高齢者にとっては依然として油断はできません。引き続き気を引き締めていきましょう。

12月度定例会→12月12日(土) 10:00~11:00 自治会館集会室で行います。

先の定例会と同様に、出席される方はマスク着用、平熱状態が条件です。本年最後の定例会となりますので、大勢のご参加をお願い致します。

- 11月度定例会・誕生会(11月14日 10:~11:30 出席者 21名 会員総数 59名)
 - ① 誕生会: 11月度誕生の方は 手嶋敬子さん、石川祐子さん、白井重之さん、亀田重子さん の方々です。おめでとうございます。全員でハッピーバースデーを歌って、記念品を差し上げました。出席者の白井さんから「小さい頃、誕生会にこの歌を歌ってもらったことがなかったので嬉しいです。最近コロナが急増している為に、家に籠っていると筋力低下や痴呆症が進んだりするので、マスク着用と手洗いなど消毒を励行して極力外出し、当松風会の催事には出席してお互いに健康には十分気をつけたい。」と、手嶋さんからは「“ハッピーバースデー”の歌を歌って頂き有難うございました。11月で■歳を迎え、これまで色々なことが思い出されますが、これといったことが無かった様な気がします。今は孫娘が20歳になり、その子の花嫁姿を見られる様に健康に気をつけて頑張りたい。これまで毎年楽しくお出掛けできたが、今年はコロナ禍で駄目になったので来年は楽しんで出掛けられるようになって欲しい。」と返礼のお話がありました。
 - ② コロナ禍でお出掛けも少なく運動不足や会話も少なくなっているので、体を動かし乍ら「ら」「り」「る」「れ」「ろ」「ば」「び」「ぶ」「べ」「ぼ」の発声練習をしたところ、体が少し暖かくなりました。
 - ③ 松風台社協、湘北地区社協の那須会長から、湘北地区社協による健康福祉講座を今年は開催出来そうにないので、今年は保健所、徳洲会病院で貰った資料を纏めて皆さんにお配りしたいとお話がありました。
 - ④ 竹田会長より、コロナ感染者が増えているので皆さんにはくれぐれも気をつけてくださいとのことでした。
 - ⑤ みんなの唱: 全員で「ゆめクラブ松風会の歌」「真っ赤な秋」「虫の声」「明日があるさ」「荒城の月」「もみじ」6曲と久方ぶりの大合唱でした。
 - ⑥ 新会員の紹介: 渡部勝則さん(松風台■-■)が入会されました。会員数は59名となりました。
2. 茅老連報告: 10月に続き催事(旅行、文芸作品展、スポーツ行事など)は中止または延期となっています。
3. 12月度誕生の方: 松田晴子さん、佐々木和子さん、町田淳子さん、山口正美さん、の方々です。おめでとうございます。

随筆ではありませんが、この紙面を借りて、自己紹介をさせていただきます。

- (1) 名前の重之は父の名(重太郎)の一字をとり、伯母が命名。
- (2) 昭和20年11月の戦後生まれ。この11月に後期高齢者の仲間入り。
- (3) 出身は兵庫県の田舎、社町という昔栄えた門前町。
- (4) 家族は妻、子供2名で全員O型。猫アレルギーなのに何故か猫2匹。
- (5) 職歴はお固い銀行員(営業店、証券部、支店経営)を経て取引先企業(ビルメンテナンス)へ。58歳で退職し、現在に至る。
- (6) サラリーマン時代の酒、カラオケ、休日ゴルフがたたり(?)、60歳半ばに大動脈乖離。10時間にわたる手術。
- (7) モットーは「夫婦仲良くまず健康」(父の口癖)。健康のため、散歩、グラウンドゴルフ、吹矢、血流アップ器具(ヘルストロン)に注力中。
- (8) 一番の楽しみは、時々友人との食事会や「松風台」の皆さんとの交流。
- (9) 今の心境は「露の世や友と語らい白寿まで」(俳句)
「コロナにはワクチン打って倍返し」(川柳) (次回は白井さんをお願いします)

2万回のウソが生んだ一体感

米国の歴代大統領が、国民や世界をいかに欺いてきたかを説き明かす著作を出版した米国の大学教授の「結論」と題する朝日新聞の記事。これまでのアメリカの大統領は色んな嘘をついているが、飛び抜けているのはトランプ大統領だ。米メディアの集計によれば、就任以来2万回以上の虚偽や誤解を招く発言、発信をしたとのこと。トランプ氏の場合は理由が不明なものが多いと言う。また、「見え透いたウソ」を受け入れ合うことで、政治家と支持者の間に一体感が築かれ、周囲から批判されるほど、絆は強まるとの指摘もある。米国の記者たちも、忸怩(じくじ)たる思いをしているとのこと。8月にホワイトハウスで記者が「3年半、国民にウソをつき続けたことを悔いていないか」とトランプ氏にぶつけたところ、一瞬の間があき、同氏は別の記者を指名し、質問は無視されたとのこと。米国のことは良く解らないが、一流メディアの報道を「フェイクニュース」と一蹴し続けているトランプ氏がまた大統領に選ばれるのか?

世界遺産—日本シリーズ：奈良の東大寺



天高く風薫る秋11月を代表する「ざる菊」の集団
冬到来前の爽やかな季節です(真野さん提供)

